

多元社会を生きるキリスト教

- 民族、平和 -

問題 - キリスト教は絶対平和主義か -

1. 聖書における戦争: 聖書は戦争否定的か?
2. 旧約聖書は、必ずしも戦争否定論ではない。
「万軍の主」としての民族神ヤハウェ(戦争メタファー)
3. 民族宗教としての古代イスラエル宗教、子孫の繁栄と領土の拡大(アブラハム契約)
<創世記>
15:5 主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。
15:18 その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。エジプトの川から大河ユーフラテスに至るまで、19 カイン人、ケナズ人、カドモ二人、20 ヘト人、ペリジ人、レファイム人、21 アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の土地を与える。」
4. キリスト教もまた、民族宗教的な性格(市民宗教)とその克服の両面を持っている。
9月11日以降のアメリカのキリスト教会
5. 一神教とは
 - (a) 多神教的世界における特定の一神への帰依
「一神教対多神教」という図式では、現実の宗教を理解するには単純すぎる。
 - (b) 唯一神教(Monotheismus)と単一神教(Monolatrie)
「他の神々の存在を徹底的に排除する」(唯一神教)
「他の神々の存在が否定されることなしに、一つの神のみに仕える」(単一神教)
 - (c) 多神教(単一神教)から唯一神教へ
古代イスラエルでは、バビロン捕囚とユダヤ教の成立を契機に、唯一神教への傾斜が明瞭になる。

預言者と平和

6. 旧約聖書における民族宗教とその克服のプロセスと関係
7. 預言者の平和思想
<イザヤ書>
19:23 その日には、エジプトからアッシリアまで道が敷かれる。アッシリア人はエジプトに行き、エジプト人はアッシリアに行き、エジプト人とアッシリア人は共に礼拝する。
24 その日には、イスラエルは、エジプトとアッシリアと共に、世界を祝福する第三のものとなるであろう。25 万軍の主は彼らを祝福して言われる。「祝福されよ / わが民工

ジプト／わが手の業なるアッシリア／わが嗣業なるイスラエル」と。

55:5 今、あなたは知らなかった国に呼びかける。あなたを知らなかった国は／あなたのもとに馳せ参じるであろう。あなたの神である主／あなたに輝きを与えられる／イスラエルの聖なる神のゆえに。

8.正義の神とその神の平和は、イスラエル民族を超える。

イエスの宗教運動をめぐって

9.イエスの宗教運動：山上の説教の平和思想

イエスの平和についての考えは、基本的にこの預言者の線に立っている。

<マタイ福音書>

5:38 「あなたがたも聞いておるとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。39 しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。40 あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。

5:43 「あなたがたも聞いておるとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。44 しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

10.マックス・ウェーバーの問題提起

山上の説教は、宗教的達人の倫理か？

宗教的理想主義と政治的現実主義（心情倫理と責任倫理）

11.理想としての平和の意義：夢・幻を見る能力

キリスト教と社会

キリスト教と社会との関係性については、多様な立場が存在する。

(1)H.R.ニーバーの類型論

「文化に対立するキリスト」「文化のキリスト」「文化の上なるキリスト」

「逆説におけるキリストと文化」「文化の変革者キリスト」

(2)キリスト教はあらゆる社会システムと結合可能である

(3)キリスト教と民主的システムの親近性(K.バルト)

古代キリスト教会の平和思想

12.一神教の持つ社会的帰結？

「一神教＝専制的・集権的一元支配」とは単純には言えない

(a)社会の統合原理としての宗教

宗教の社会的な機能として、共通の信仰対象への帰依を媒介とした強固な社会的統合の形成を指摘できる。

(b)モルトマンにおける一神教論

ローマ帝国のイデオロギーとしての「絶対的な唯一神教」と、三位一体的な一神教との区別

13.古代世界における宗教

古代の宗教における祭政一致、一神教はその一つの形と考えるべき

- 社会の統合原理を担う宗教的な象徴体系は、単一神教的になる
- 14.古代キリスト教における兵役拒否
 - 15.軍隊の宗教性・偶像崇拜
 - 16.国教化における大転換:エウセビオス(親ローマ帝國的歴史神学) 正戦論
 - 17.正戦論と非戦論との二重性:マクロな歴史の動向は?

近代社会とキリスト教 - ピューリタニズム -

- (1)近代社会のキリスト教との本質的関わり
 マートン・テーゼ:近代自然科学とピューリタンの信仰
 ウェーバー・テーゼ:資本主義の精神とプロテスタント的な職業倫理
 リンゼイ・テーゼ:
 - (2)リンゼイ・テーゼ:近代イギリスの議会制民主主義は、ピューリタンの宗教的精神性を基盤・母体に行っている。
 - (3)民主主義の基本原理の宗教的基盤
 ルターの万人祭司説の社会的な具体化:
 神の前に立つ個人の平等性 人格 人権
 「同意の原理」「討論の原理」「集いの意識」

危機としての世俗主義

- (1)世俗化と世俗主義
 宗教改革の正当な帰結としての世俗化とその世俗主義的変質
 信仰は富を生み出した。しかし、富は信仰を腐敗させた。
- (2)集いの意識の喪失と民主主義の形骸化
- (3)世俗主義を克服する精神性・霊性はどこにあるのか
 文化における精神性の回復

多元社会のキリスト教

- (1)共通課題の共有と自覚
 アジアのキリスト教:貧困とエコロジー
- (2)共通課題に取り組む方法論(対話の前提)
 真理の独占、真理の解体でもなく、真理探究の多数性の承認
 コミュニケーションによって、繰り返し表現し直される真理
- (3)排他主義・包括主義から複数主義へ
 共通課題の下での相互の尊重と、自らの独自性における全体への貢献
- (4)キリスト教はどこに向かうのか?
 - (a)伝道タイプの宗教としてのキリスト教
 共通課題への実践的な取り組みにおける価値の表明
 - (b)西欧民主主義は、共通の前提として機能できるか?

内村鑑三の非戦論

18.内村鑑三の戦争論：義戦論から非戦論へ

19.理想への情熱と冷静な分析力との結合(信仰と科学)

理想とは現実形成力を必要とする

単なる感情論ではなく形成の道筋を示すこと

20.国家・民族の繁栄とは、国家の理想についての別のイメージ・ヴィジョン

小国・農業国(『後世への最大遺物・デンマルク国の話』 岩波文庫)

< マタイ >

10:16 「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。

むすび - 転換的知恵の教師イエス -

21.民族宗教的な精神性を超えて、民族概念の再構築に向けて

現実をいかに別の仕方で見るか

< 参考文献1 >

1.宮田光雄 『平和の思想史的研究』創文社

『平和のハトとリヴァイアサン - 聖書の象徴の現代政治 - 』岩波書店

2.並木浩一 『旧約聖書における文化と人間』教文館

4「イスラエルと諸国民とヤハウエ」(213-246頁)

3.J.ヘルジラルド、R.J.デリー、J.P.バーズ 『古代のキリスト教徒と軍隊』教文館

4.R.A.マーカス 『アウグスティヌス神学における歴史と社会』教文館

5.J.モルトマン、J.B.メッツ 『政治的宗教と政治的神学』新教出版社

6.H.E.テート 『平和の神学 キリストの現実からの倫理』新教出版社

7.マックス・ヴェーバー 『職業としての政治』岩波文庫

8.内村鑑三 『内村鑑三著作集2 非戦論』岩波書店

9.芦名定道・土井健司・辻学 『現代を生きるキリスト教 もうひとつの道から』教文館

第二部第4章 「キリスト教は寛容でありうるか？」

第5章 「民族主義と平和」、第3講「思想」(211-216頁)

10.芦名定道・小原克博 『キリスト教と現代 終末思想の歴史的展開』世界思想社

11.芦名定道 「現実の宗教と宗教の理想」『世界思想』29号 2002/春 世界思想社

12.Tetsuo Sasaki, *The Concept of War in the Book of Judges. A Strategical Evaluation of the Wars of Gideon, Deborah, Samson, and Abimelech*, Gakujutsu Tosho Shuppan-Sha, 2001

< 参考文献2 >

1.B.ラング編 『唯一なる神 - 聖書における唯一神教の誕生』新教出版社

2.西谷幸介 「「単一神教」再考」(『宗教研究』 日本宗教学会 75巻 330-3,2001年)

3.モルトマン 『三位一体と神の国』新教出版社

4.モルトマン・メッツ 『政治的宗教と政治的神学』新教出版社

5.H.R.ニーバー 『キリストと文化』日本基督教団出版局

6. 芦名定道 「キリスト教と近代自然科学 - ニュートンのニュートン主義を中心に - 」
(『京都大学文学部研究紀要』38巻 1999年)
7. 芦名定道・小原克博 『キリスト教と現代 - 終末思想の歴史的展開』世界思想社
8. A.D.リンゼイ 『民主主義の本質』未来社
9. 大澤麦・澁谷浩訳 『デモクラシーにおける討論の生誕 ピューリタン革命における
パトニー討論』聖学院大学出版会
10. 金子晴勇 『近代人の宿命とキリスト教 世俗化の人間学的考察』聖学院大学出版会
11. Aloysius Pieris, *An Asian Theology of Liberation*, T & T Clark 1988